

# 山口県防府市における薬局薬剤師のAMR対策と抗菌薬適正使用に関するアンケート調査報告

○渡邊 太郎<sup>1)</sup> <sup>2)</sup>、村上 愛奈<sup>3)</sup>、井口 美紀<sup>3)</sup>、椎木 康之<sup>1)</sup> <sup>4)</sup>、白野 陽正<sup>3)</sup>  
1) 一般社団法人防府薬剤師会      2) 山口県立総合医療センター薬剤部  
3) 徳島文理大学薬学部            4) 防府栄町薬局

## 【目的】

薬剤耐性（Antimicrobial Resistance, 以下 AMR）は世界的な問題とされ、日本でも AMR 対策アクションプランが策定されている。

病院では2018年4月より抗菌薬適正使用支援加算が創設され、2022年4月からは診療所で外来感染対策向上加算が創設された。感染対策向上加算1の施設を中心に、連携病院・診療所・保健所と合同でカンファレンスを開催し、抗菌薬適正使用等、地域での取り組みの推進が図られている。

一方、薬局においては抗菌薬適正使用に関わる診療報酬はない。日本で使用される抗菌薬のうち約9割は経口抗菌薬であり、実際には薬局での関わりは重要と思われる。

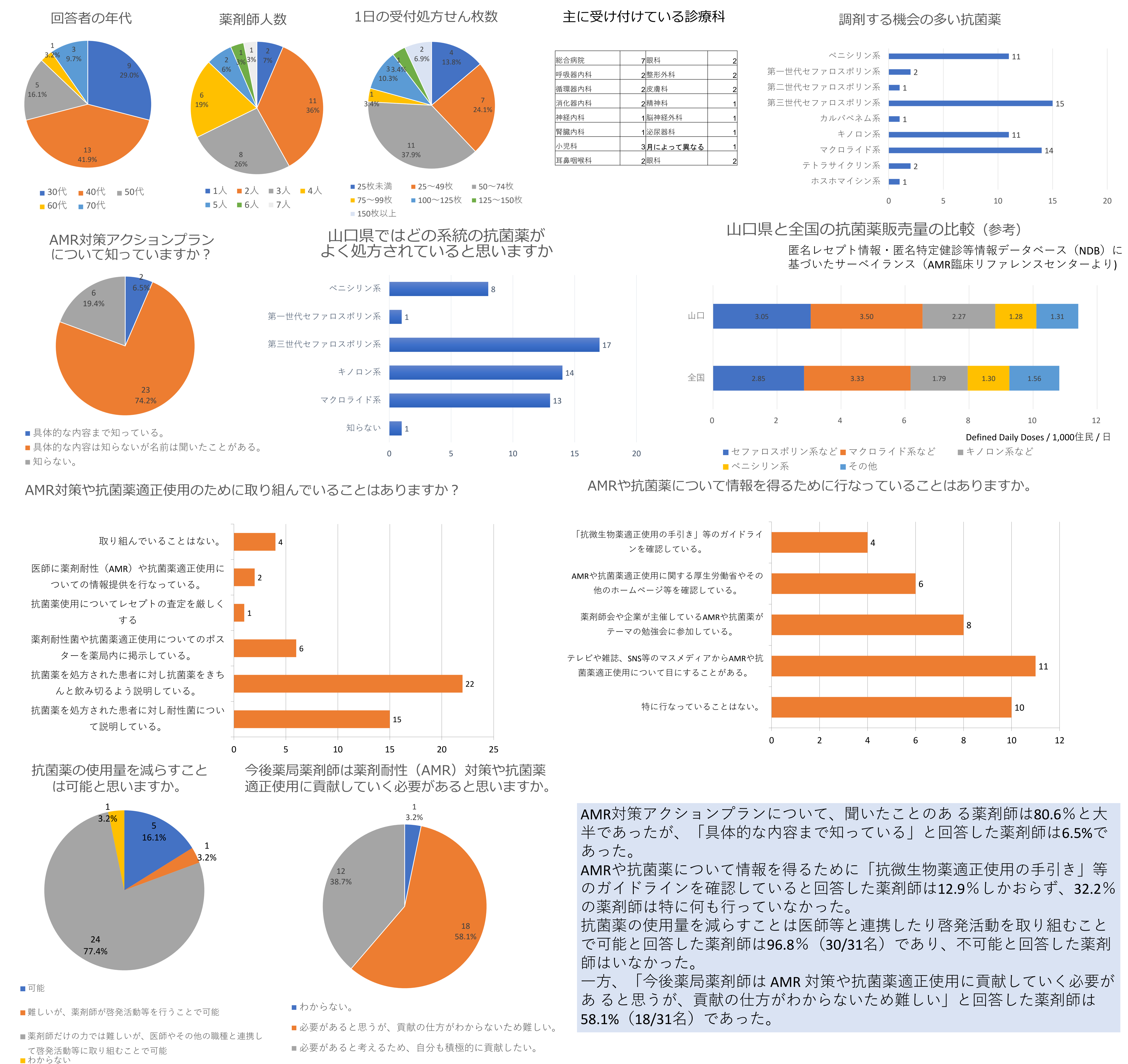
今回、薬局薬剤師にアンケートを行い、現在の薬局薬剤師のAMRや抗菌薬適正使用についての認知度や意識等について調査した。

## 【方法】

調査期間：2023年1月～4月  
調査対象：山口県防府市の全49薬局  
調査方法：アンケートをメールまたは文書依頼し、Google Formでの入力。  
回答者は1薬局に対し1名の薬剤師（無記名）とした。

- 問1: 働いている薬剤師の人数を教えてください。  
薬剤師 ( ) 人
- 問2: 1日の処方箋受付枚数を教えてください。  
約 ( ) 枚
- 問3: あなたの年代を教えてください。  
(1) 20代 (2) 30代 (3) 40代 (4) 50代 (5) 60代 (6) 70代以上
- 問4: 主に受け付けている処方箋の科はどこですか。1つ選んでください。  
(1) 総合病院  
(2) 内科 (消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・神経内科・血液内科・腎臓内科・その他 ( ) )  
(3) 小児科  
(4) 皮膚科  
(5) 精神科  
(6) 外科  
(7) 整形外科  
(8) 産婦人科  
(9) 眼科  
(10) 耳鼻咽喉科  
(11) 泌尿器科  
(12) 歯科  
(13) その他 ( )
- 問5: どの系統の抗菌薬を調剤することが多いですか。(複数回答可)  
(1) ペニシリン系  
(2) 第一世代セファロスポリン系  
(3) 第二世代セファロスポリン系  
(4) 第三世代セファロスポリン系  
(5) マクロライド系  
(6) テトラサイクリン系  
(7) フロロキノロン系  
(8) アミノグリコシド系  
(9) カルバペネム系  
(10) その他 ( )
- 問6: AMR対策アクションプランについて知っていますか。1つ選んで下さい。  
(1) 具体的な内容まで知っている。  
(2) 具体的な内容は知らないが名前聞いたことがある。  
(3) 知らない。
- 問7: 徳島県ではどの系統の抗菌薬がよく処方されていると思いますか。(複数回答可)  
(1) ペニシリン系  
(2) 第一世代セファロスポリン系  
(3) 第二世代セファロスポリン系  
(4) 第三世代セファロスポリン系  
(5) マクロライド系  
(6) フロロキノロン系  
(7) その他 ( )
- 問8: 抗菌薬の使用量を減らすことは可能だと思いますか。1つ選んで下さい。  
(1) 可能  
(2) 難しいが、薬剤師が啓発活動等を行うことで可能だと思う。  
(3) 薬剤師だけの力では難しいが、医師や他の職種と連携して啓発活動等に取り組むことで可能だと思う。  
(4) 不可能  
(5) わからない。  
(6) その他 ( )
- 問9: AMR対策や抗菌薬適正使用のために何か取り組んでいることはありますか。(複数回答可)  
(1) 薬局にAMR対策や抗菌薬適正使用についての情報提供を行っている。  
(2) AMR対策や抗菌薬適正使用についてのポスターを薬局内に掲示している。  
(3) 抗菌薬を処方された患者に対し、耐性菌について説明している。  
(4) 抗菌薬を処方された患者に対し、抗菌薬をきちんと飲み切るよう説明している。  
(5) 抗菌薬を処方された患者に対し、耐性菌について説明している。  
(6) その他 ( )
- 問10: AMR対策や抗菌薬について情報を得るために行っていることはありますか。(複数回答可)  
(1) 薬剤師会や企業が主催しているAMR対策や抗菌薬がテーマの勉強会に参加している。
- 問11: 今後薬局薬剤師はAMR対策や抗菌薬適正使用に貢献していく必要があると思いますか。1つ選んで下さい。  
(1) 必要があると思うため、自分も積極的に貢献したい。  
(2) 必要があると思うが、貢献の仕方がわからないため難しい。  
(3) 必要はない。  
(4) わからない。  
(5) その他 ( )
- 問12: AMR対策や抗菌薬について情報を得るために行っていることはありますか。(複数回答可)  
(1) 「抗微生物薬適正使用の手引き」等のガイドラインを確認している。  
(2) AMRや抗菌薬適正使用に関する厚生労働省やその他のホームページ等を確認している。  
(3) 薬剤師会や企業が主催しているAMRや抗菌薬がテーマの勉強会に参加している。  
(4) テレビや雑誌、SNS等のマスメディアからAMRや抗菌薬適正使用について目にする可能性がある。  
(5) 特に行っていないことはない。

## 【結果】 回収率63.2% (31名/49名)



## 【考察】

アンケート結果から薬局薬剤師のAMR対策アクションプランに関する認知度は低かった。しかし、大半の薬局薬剤師がAMRや抗菌薬適正使用への貢献の必要性を感じており、医師等と連携して抗菌薬の使用量を減らすことが可能と考えている。

一方で、抗菌薬の適正使用に対する対応が分からない薬剤師も多数見られた。今回の結果を踏まえ、病院薬剤師より薬局薬剤師に対し、研修会等を実施し、より積極的にAMRや抗菌薬適正使用に関わっていただけるように、地域一体となって取り組んでいきたい。

第82回九州山口薬学大会  
利益相反の開示  
筆頭演者名： 渡邊 太郎

私は今回の演題に関連して、開示すべき利益相反はありません。